



取付説明書

ESTIMA ACR30W

BLITZ

(1)安全上のご注意

はじめに

- ・ この製品についての説明には、製品を使用する際と、自動車に装着する際の注意事項が詳しく記載してあります。良くお読みになって、正しくお使いください。
- ・ 装着車両に、この製品システム以外の製品装着や改造を行った場合に発生する不具合に関して、弊社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ お客様ご本人または第三者の方が、この製品および付属品の誤った使用や、その使用中に生じた故障、その他の不具合によって受けられた障害については、弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ この製品および付属品は、改良のため予告なく変更する事があります。
- ・ キットの構成部品はパーツリストに記載してあります。取り付け前に異品・欠品の無いことを確認してください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される危険の状況を示します。

- ・ 換気の良い場所で取り付け作業を行ってください。
換気の悪い場所で作業を行うと、爆発・火災の原因となります。
- ・ バッテリーのマイナス端子をはずしてから、取り付け作業を行ってください。
配線のショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ コネクタを外す場合、ハーネスを引っ張らず、必ずコネクタを持って取り外してください。
ショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ この製品に異音・異臭などの異常が生じた場合には、製品の使用をすみやかに中止し、販売店または弊社までお問い合わせください。
そのまま使用すると、感電や火災、電装部品の破損の原因となります。
- ・ この製品の取り付け時に、エンジンルーム内の電気配線や配管類を傷つけないよう注意してください。
ショートなどによる火災、電装部品・エンジン・車両の破損の原因となります。
- ・ 部品交換は自動車が不安定な状態で作業すると危険です。必ず自動車作業専用リフトを使用して、安全に作業してください。
【二柱式リフトをお勧めします】
やむをえずガレージジャッキを使用する場合は、必ずリジトラック(馬、安全スタンド)を併用して安全に作業してください。車載ジャッキでの作業は危険なので絶対に行わないでください。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が軽傷また中程度の傷害を負う可能性が想定される危険な状況および物質損害の発生のみが想定される状況を示します。

- ・ この製品の取り付けは、必ず専門業者に依頼してください。
取り付けには専門の知識と技術が必要です。
- ・ この製品を装着前に落下させたり、装着時に無理な力を加えないでください。
作動不良や空気漏れの原因になる場合があります。
- ・ この製品の加工・分解・改造は行わないでください。
事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ この製品の取扱いは慎重に行ってください。落としたり強いショックを与えないでください。
事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ エンジンルーム内の温度が下がってから、作業をはじめてください。
エンジン本体、ラジエター、排気関係の部品は高温になり、火傷の恐れがあります。
- ・ 定期的に点検を実施し、十分に注意してご使用ください。
この製品は耐久性を考慮して、厳選された材料を使用し、厳重な社内品質管理のもとに製造されていますが、車両の使用条件などにより、耐久性が落ちたりする事があります。
- ・ 取り付け作業のために一時的に取り外す純正部品は、破損・紛失しないように大切に保管してください。
当社は取り付け作業による物的損害の責任を負うことはできませんので、慎重に作業を行ってください。
- ・ ボルト・ナット類は、適当な工具で確実に締め付けてください。
必要以上に締め付けを行うと、ボルトのネジ部が破損します。

重要事項

- ・ この製品はノーマル車輛を基準に製作されています。
ノーマル車輛以外に取り付けた場合は、製品の機能・性能及び安全性・耐久性について保証いたしかねます。
- ・ 製品装着時は、異物が混入しないよう、十分に注意をしてください。
異物等が混入すると最悪の場合エンジン破損の原因になる場合があります。
- ・ 純正部品の取り付け、取り外しの作業はメーカー発行の整備要領書をよく読んでからおこなってください。
整備要領書がお手元にない場合はメーカーにてご購入ください。
- ・ 走行前には、オイル・冷却水・排気ガス等の漏れがないか点検を行ってください。
漏れのある状態での走行は、車輛火災やエンジン破損等の恐れがあり危険です。
- ・ このキットはハイオクガソリン指定となります。

レギュラーガソリンを使用しますとノッキング等が発生させ、最悪の場合エンジン破損の原因になる場合がありますので、必ずハイオクガソリンを使用してください。
燃料タンクのガソリン入れ換え作業は危険を伴いますので、特に火気に注意してください。
- ・ 本キットを取り付ける際は必ず点火プラグを熱価の高いものに交換してください。
- ・ 取り付けの際にフュ - エルサクシオンチューブ ASSY W / ポンプ(樹脂部分)を削り加工する作業がありますが、加工作業後はフュ - エルサクシオンチューブ ASSY W / ポンプを十分に洗浄し加工粉などを完全に除去してください。加工粉などがフュ - エルサクシオンチューブ ASSY W / ポンプ内に残っていると、エンジン始動不良、エンジン不調等の原因になる場合があります。

【作業者の方へお願い】

作業が終了しましたら、本取扱説明書は必ずお客様に返却してください。

作業にとりかかる前に必ず下記の点を点検してください。

純正のホースやバンド等の部品に変形、割れ、ひび等の劣化が生じていたら純正品の新品に交換してください。

(2) 適合車種

製品名称: BLITZ COMPRESSOR SYSTEM

車 名: TOYOTA ESTIMA




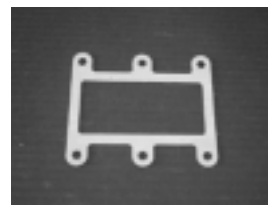


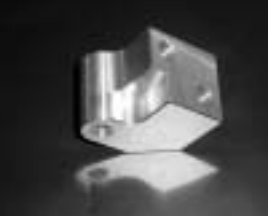



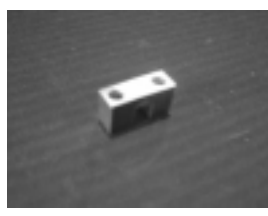

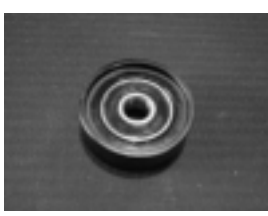
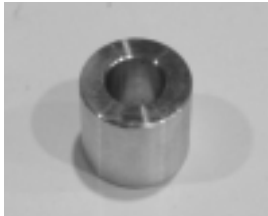




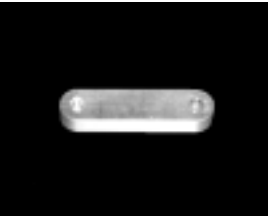
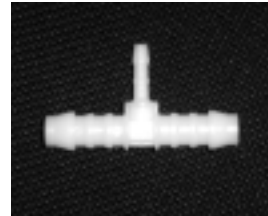
型 式: ACR30W 2WD AT 車







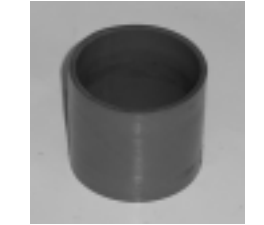








E/G型式: 2AZ-FE









年 式: 2003年5月～2006年1月

製品番号: 10161

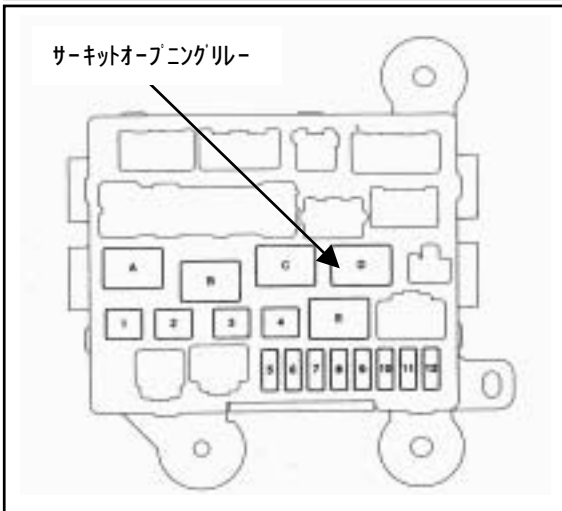
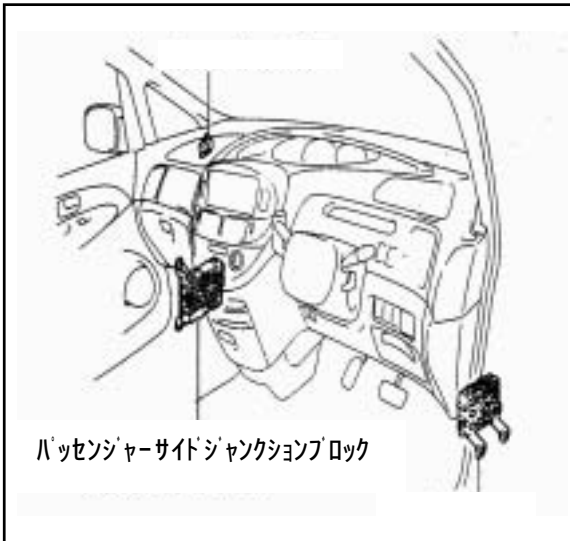
(3) パーツリスト

<p>1. コンプレッサー-本体 1ヶ</p> 	<p>2. インレットチャンバー 1ヶ</p> 	<p>3. アウトレットチャンバー 1ヶ</p> 	<p>4. コンプレッサー-ガスケット 2ヶ</p> 
<p>5. スロットルボディガスケット 1ヶ</p> 	<p>6. コンプレッサー-ブラケット A 1ヶ</p> 	<p>7. コンプレッサー-ブラケット B 1ヶ</p> 	<p>8. コンプレッサー-ブラケット C 1ヶ</p> 
<p>9. テンショナー-ブラケット A 1ヶ</p> 	<p>10. テンショナー-ブラケット B 1ヶ</p> 	<p>11. テンショナー-ブラケット C 1ヶ</p> 	<p>12. テンショナー-ボルト 1ヶ</p> 
<p>13. テンショナー-プーリー 1ヶ</p> 	<p>14. アイドラ インナー 1ヶ</p> 	<p>15. オルタネ - ター-プーリー 1ヶ</p> 	<p>16. インテークパイプ NO1 1ヶ</p> 
<p>17. サクションパイプ 1ヶ</p> 	<p>18. オルタネ - ター-カラー 1ヶ</p> 	<p>19. リザーバ-移動ステー 2ヶ</p> 	<p>20. ニップル 8-4-8 1ヶ</p> 

<p>21. クリーナーステー 1ヶ</p> 	<p>22. インターパイプ NO2 1ヶ</p> 	<p>23. Vベルト大 2種類</p> 	<p>24. Vベルト小 1ヶ</p> 
<p>25. レギュレーター 1</p> 	<p>26. 8ホース 1ヶ</p> 	<p>27. 6シリコンホース 1ヶ</p> 	<p>28. ストレートニップル 8 2ヶ</p> 
<p>29. CAGホース 1ヶ</p> 	<p>30. シリコンホース 60 3ヶ</p> 	<p>31. 異型シリコンホース 1ヶ</p> 	<p>32. ホースバンド SS 2ヶ</p> 
<p>33. ホースバンド S 6ヶ</p> 	<p>34. ホースバンド M 7ヶ</p> 	<p>35. ホースバンド L 1ヶ</p> 	<p>36. コルゲートチューブ 7 1ヶ</p> 
<p>37. クリーナーアダプター 1ヶ</p> 	<p>38. LMクリーナー 1ヶ</p> 	<p>39. コンプレッサープレート 1ヶ</p> 	<p>40. タイラップ 20ヶ</p> 

41. リレ-ハーネス 1ヶ	42. 電磁クラッチ用スイッチ 1ヶ	43. スイッチプレート 1ヶ	44. スイッチコントローラ- 1ヶ
			
45. キボ-スリーブセット 3ヶ	46. エレクトロタップ 3ヶ	47. ハイオクステッカー 2ヶ	48. 取扱説明書 1ヶ
			
六角ボルト M6 x 12 2ヶ	フランジボルト M6 x 16 8ヶ	フランジボルト M8 x 12 1ヶ	フランジボルト M8 x 25 3ヶ
フランジボルト M10 x 25 2ヶ	フランジボルト M10 x 35 2ヶ	フランジボルト M10 x 40 1ヶ	六角ボルト M10 x 45 1ヶ
六角ボルト M10 x 55 2ヶ	キャップボルト M6 x 25 2ヶ	キャップボルト M6 x 30 4ヶ	キャップボルト M6 x 35 2ヶ
キャップボルト M8 x 30 4ヶ	キャップボルト M8 x 75 2ヶ	ワッシャー M8 2ヶ	ワッシャー M10 3ヶ
フランジナット M6 1ヶ	フランジナット M8 1ヶ	フランジナット M10 3ヶ	

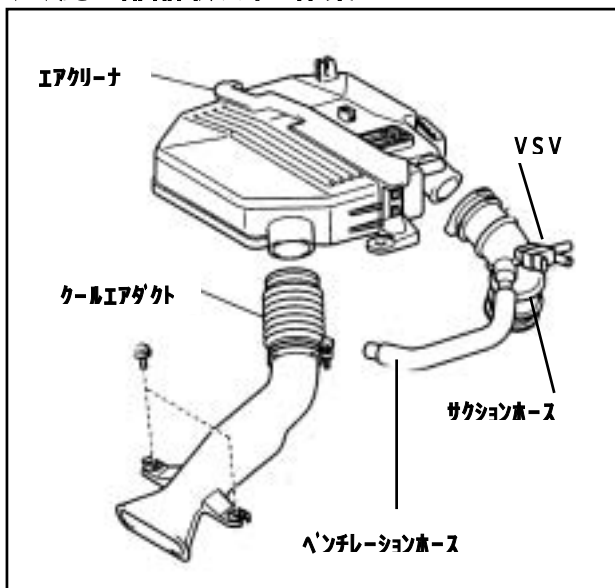
(4) 燃料流出防止作業



- (1) 助手席のフロントドアスカッフプレート及びカウルサイドトリムボードを取り外す。
左図の位置(パッセンジャーサイドジャンクションブロック)にサーキットオープングリレーがあります。
- (2) サーキットオープングリレーを取り外す。
- (3) エンジンを始動し、自然に停止した後にイグニッションスイッチをOFFにする。
- (4) バッテリーのマイナス端子を取り外す。
- (5) サーキットオープングリレーを取り付ける。
- (6) フューエルキャップタンクを外しフューエルタンク内の圧力を抜く。

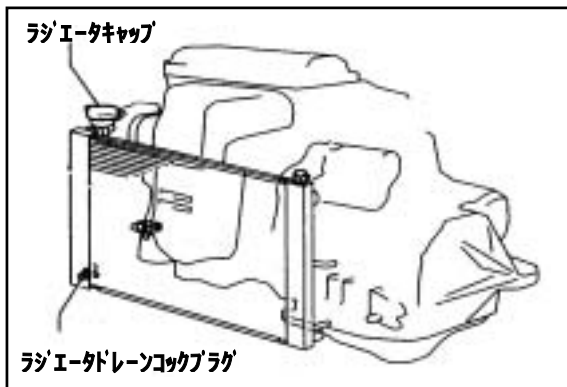
左図矢印の位置がサーキットオープングリレーです。

(5) 純正部品取り外し作業



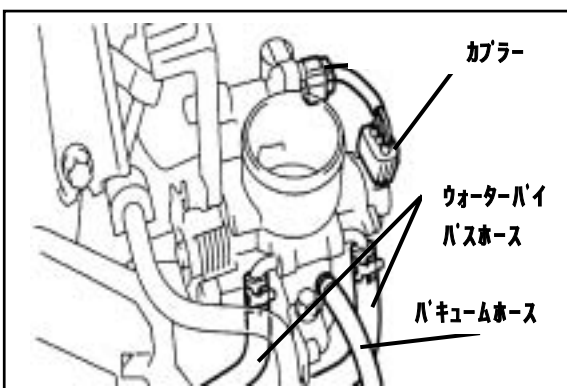
- (1) エアクリーナー取り外し。

クールエアダクトを取り外す。
エアクリーナーよりサクションホースを切り離す。
エアフロメータのカプラーを切り離す。
ボルト2本を外し、エアクリーナーを車輻前方へ引き、ブラケットのかん合を外して取り外す。
VSVをサクションホースより切り離す。
ベンチレーションホースをサクションホースより切り離す。
クランプを緩め、サクションホースを取り外す。



(2)ラジエータキャップを取り外す。
エンジンが高温時の時はラジエータキャップを外さない事。

(3)下側のラジエータドレンコックプラグを緩め冷却水を抜き取る。

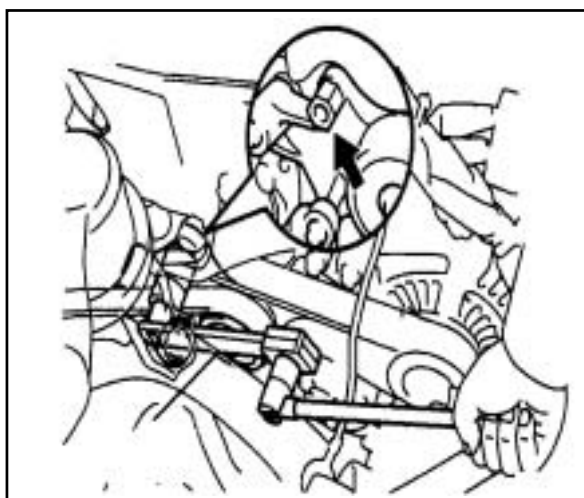
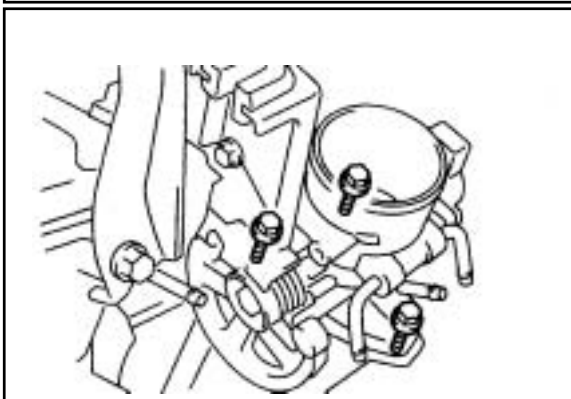


(4)スロットルポジションセンサーのカブラーを切り離す。

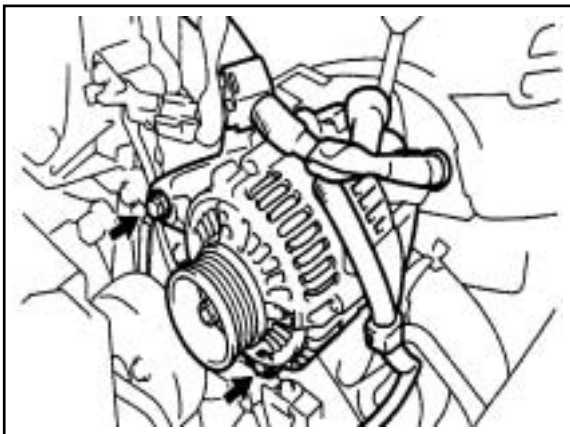
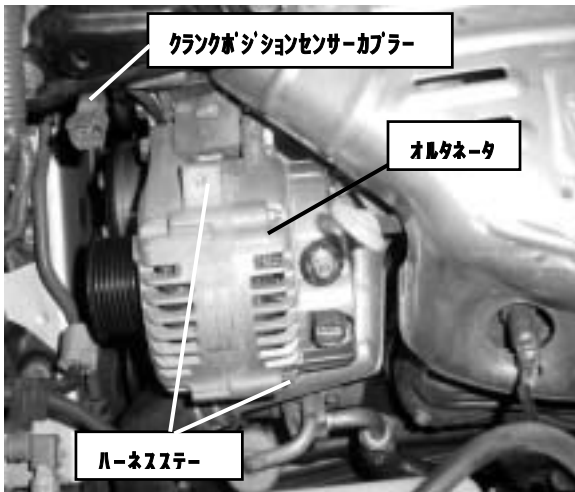
(5)バキュームホースをスロットルボディより切り離す。VSVからも切り離し、バキュームホースを取り外す。

(6)ウォーターバイパスホース2本を切り離す。

(7)ボルト4本を外し、スロットルボディを取り外す。



(8)左図矢印の位置に工具をかけ、Vベルトテンショナーをゆっくり時計方向に回してVベルトを取り外す。

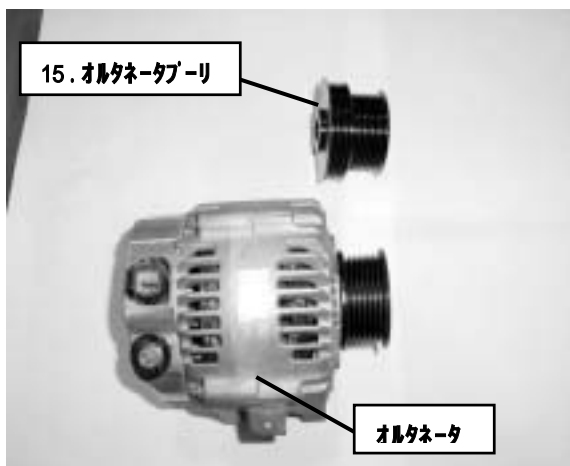


- (9) オルタネータのカブラー、ワイヤクランプ及び + B 端子を切り離す。
- (10) オルタネータに付いているハーネスステーを 2 個取り外す。
- (11) クランクポジションセンサーハーネスをケーブルより切り離し、ステーを取り外す。

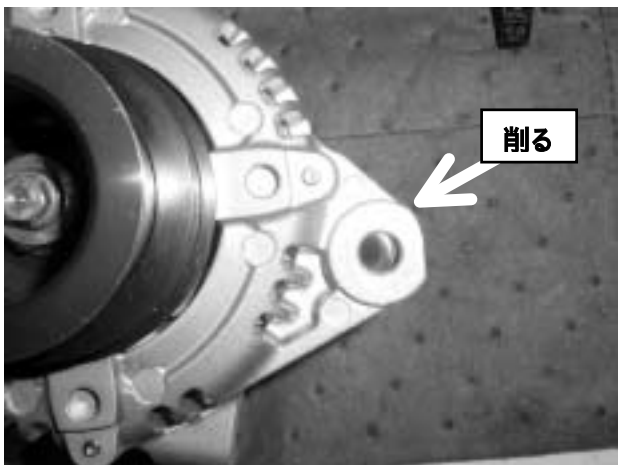
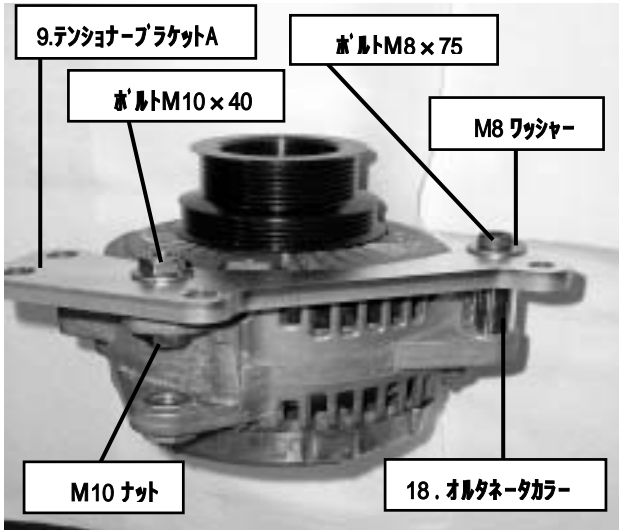
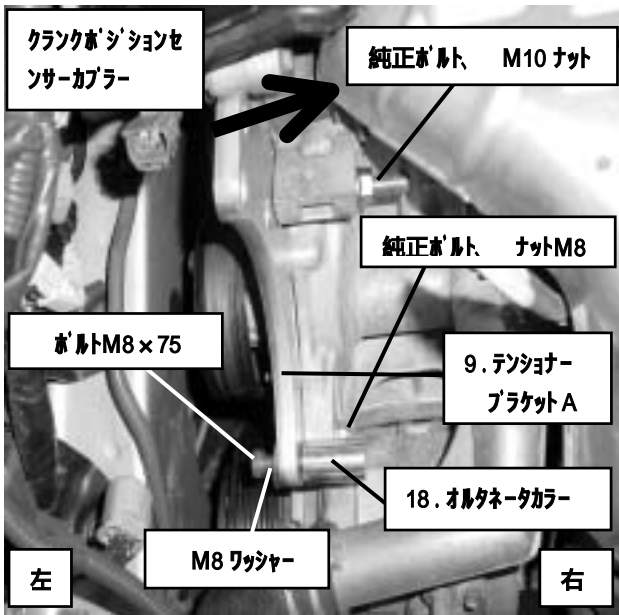
- (12) 左図矢印の位置のボルトを外し、オルタネータを取り外す。

(6) コンプレッサーキット取り付け作業

41. リレーハーネスの青線を、運転席側から室内に引き込んでください。その後作業の邪魔にならない所に、41. リレーハーネス本体をよけておいてください。



- (1) オルタネータのプーリーセンターナットを緩めプーリーを取り外す。
- (2) 付属の 15. オルタネータプーリーに付け替える。
 $T = 100.0 \text{ N} \cdot \text{m} \text{ (1020 kgf} \cdot \text{cm)}$
 ネジロック剤を塗布してください。



(3) 図のように9.テンショナーブラケットAを純正ボルト2個、M10フランジナット、M8フランジナットを使用して取り付ける。

$T = 21 \text{ N} \cdot \text{m} (214 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M8)

$T = 52 \text{ N} \cdot \text{m} (531 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M10)

クランクポジションセンサーカプラーを矢印の方向(9.テンショナーブラケットAの右側)に持つてくる。

注意 クランクポジションセンサーハーネスを9.テンショナーブラケットAとエンジンブロックの間に挟まないようにしてください。

(4) 9.テンショナーブラケットAに キャップボルトM8×75、M8ワッシャー、18.オルタネータカラーを図のように差し込む。

(5) 図のようにオルタネータを9.テンショナーブラケットAに フランジボルトM10×40、M10フランジナットで取り付ける。

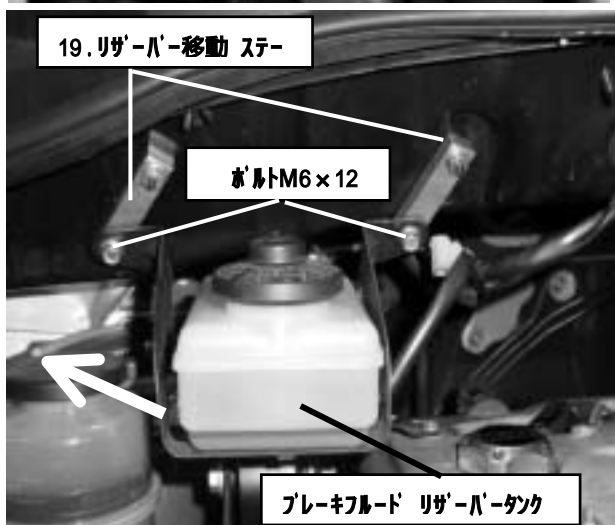
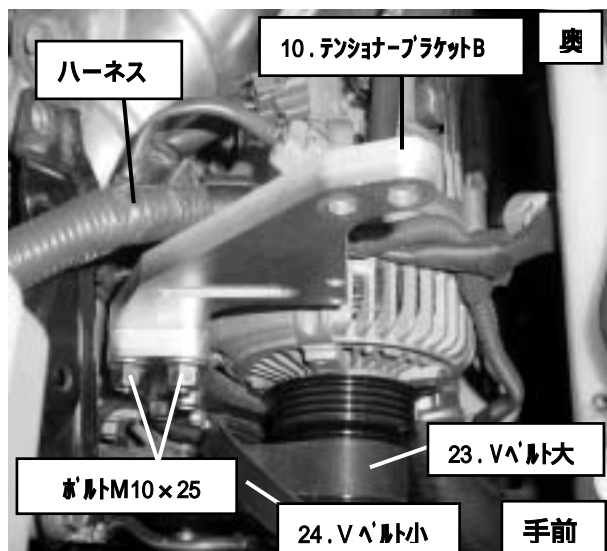
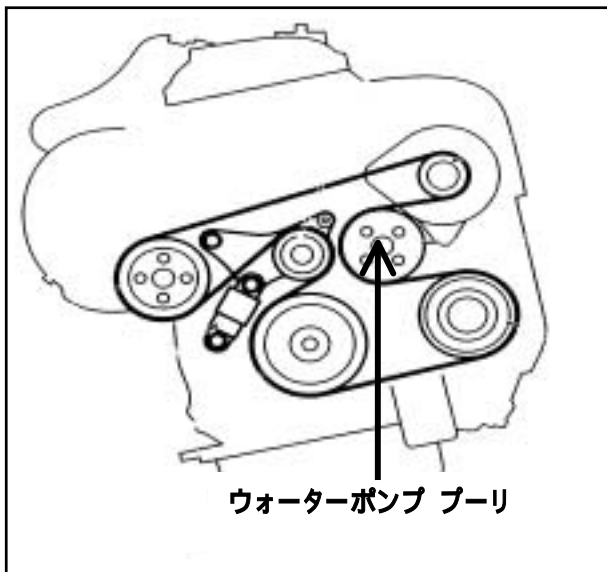
$T = 21 \text{ N} \cdot \text{m} (214 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M8)

$T = 52 \text{ N} \cdot \text{m} (531 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M10)

ボルトを締付ける際にエンジン側にオルタネータを押しながら締付けてください。エンジン寄りでない場合とベルトが、掛けづらくなる場合があります。

オルタネータがエンジンブロックに当たってしまう場合は左図の位置を若干削ってください。オルタネータにオイルレベルゲージに当たってしまう場合は、オイルレベルゲージをエンジン側に押し曲げてください。

注意 オイルレベルゲージを曲げ加工する際にはパイプの折れ、破損に十分注意して加工してください。



(6) オルタネータープーリの内側(4リブ側)に24.Vベルト小を仮付けし、オルタネータープーリの外側(7リブ側)に23.Vベルト大を取り付ける。

23.Vベルト大は2種類あります。

7PK1970を最初に取り付けしてください。

7PK1970が取り付けできない場合は、7PK1980を使用してください。

ベルトが長すぎる場合、純正オートテンショナーからの異音の発生やベルトの滑り等の不具合が発生する可能性があります。

取付の手順はP9(10)の取り外しと逆の手順で取り付けしてください。

ベルトをかける際は、左図のウォーターポンプの背面プーリでかけるようにしてください。

Vベルトが取付できない場合には、再度オルタネータを緩め、エンジン側に寄せるようにしてください。

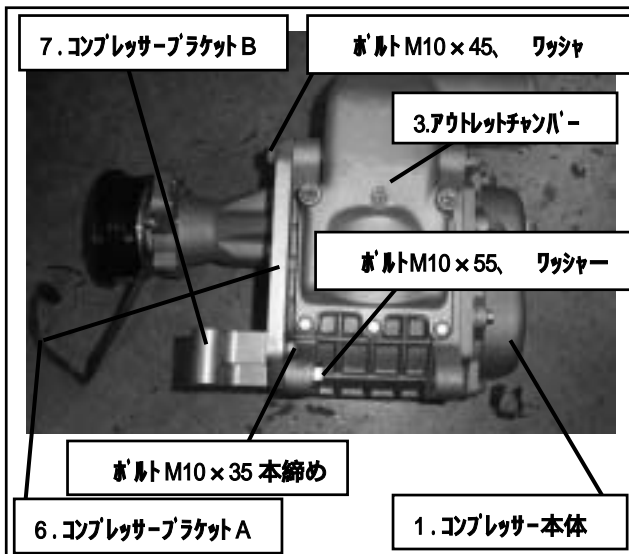
(7) 10. テンショナーブラケットBをフランジボルトM10×25(2ヶ)で仮止めする。

ハーネス類は10. テンショナーブラケットAの奥側にまわし、コネクター、ワイヤークランプ及び+B端子を取り付けてください。

$T = 9.8 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm}) (+B \text{ 端子})$

クランクポジションセンサーハーネスカブラーが届かない場合は、写真ハーネス位置のコルゲートを届く所まで剥いてください。

(8) 図のようにブレーキフルードリザーバータンクを、19. リザーバー移動ステー(2ヶ)、六角ボルトM6×12(2ヶ)で移動する。

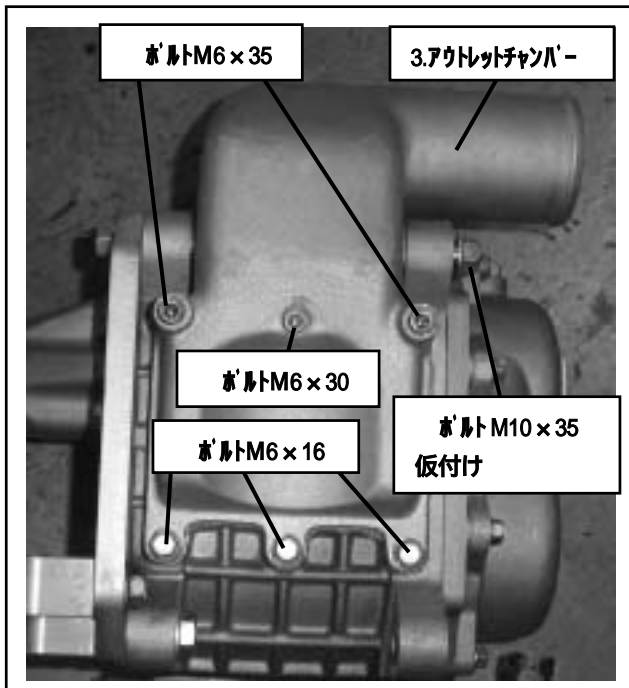


(9) 1.コンプレッサー本体に3.アウトレットチャンバー、4.コンプレッサーガスケット、6.コンプレッサーブラケットA、7.コンプレッサーブラケットB、フランジボルトM6×16(3ヶ)、フランジボルトM10×35(2ヶ)、六角ボルトM10×45、六角ボルトM10×55、キャップボルトM6×30(1ヶ) キャップボルトM6×35(2ヶ)、M10ワッシャー(2ヶ)を使用して取り付け。

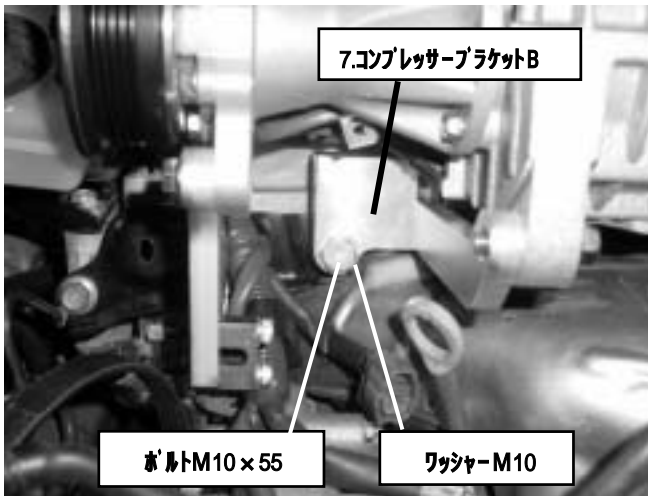
$T = 9.8 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M6)

$T = 52 \text{ N} \cdot \text{m} (531 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M10)

フランジボルトM10×35(1ヶ)は仮付けです。



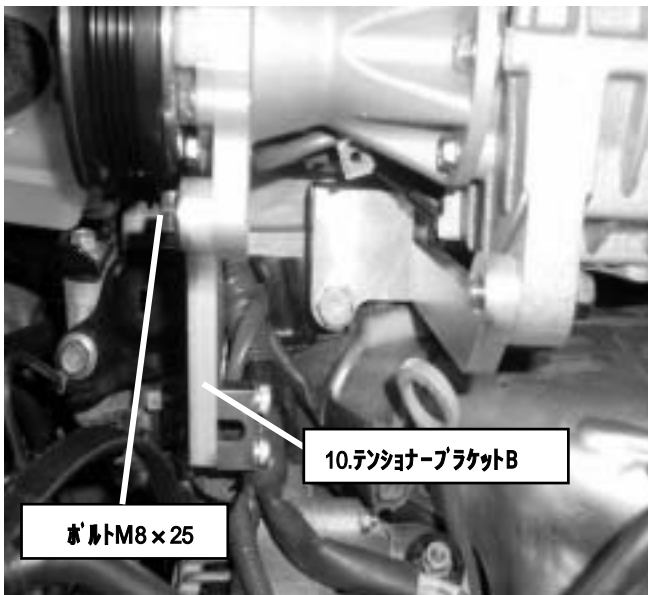
(10) 写真矢印部分のエンジンマウンティングステーのボルト(M10)を取り外す。



(11) 図のようにP13(10)で外したボルト位置に7.コンプレッサ-ブラケットBを六角ボルトM10×55、ワッシャー-M10で仮止めする。

オルタネータ内側にかけておいた24.Vベルト小を1.コンプレッサ-本体プーリー部にかけるながら取り付けしてください。

ヒートインシュレーターとアウトレットチャンバーが接触しないよう、コンプレッサ-本体を上方向に持ち上げながら取り付けしてください。

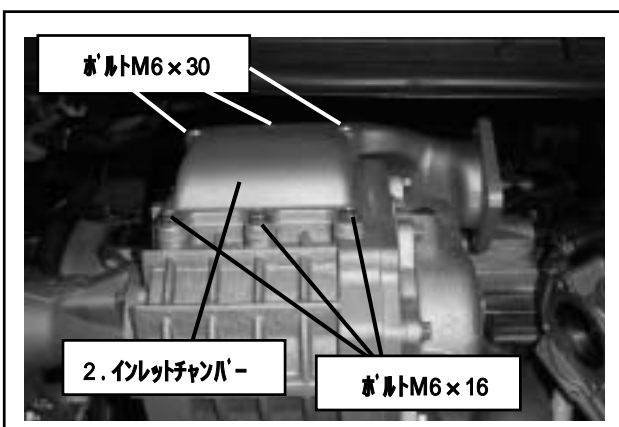


(12) 1.コンプレッサ-本体と10.テンショナー-ブラケットBをフランジボルトM8×25(2ヶ)で仮付けする。

(13) P12(7)で仮付けしたボルト(フランジボルトM10×25)、P14(11)で仮付けしたボルト(六角ボルトM10×55)、P14(12)で仮付けしたボルト(フランジボルトM8×25)を本締めする。

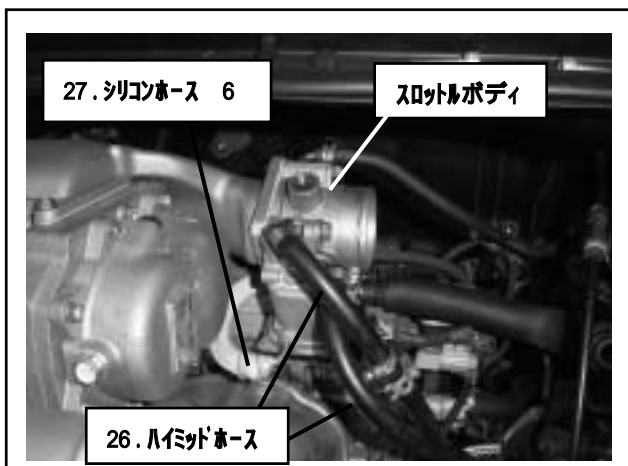
$T = 21 \text{ N} \cdot \text{m} (214 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M8)

$T = 52 \text{ N} \cdot \text{m} (531 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M10)

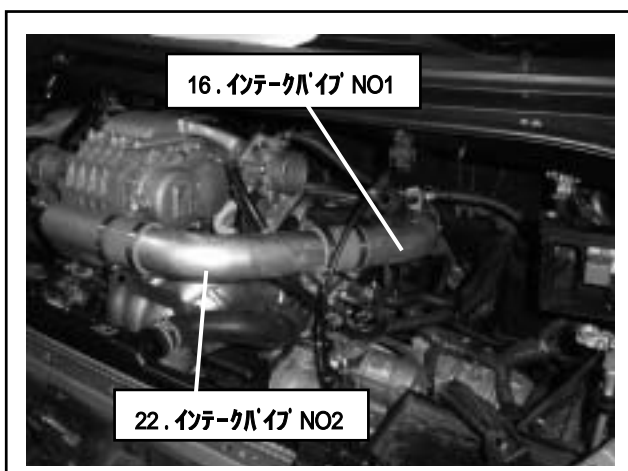


(14) 1.コンプレッサ-本体に4.コンプレッサ-ガスケット、2.インレットチャンバーをフランジボルトM6×16(3ヶ)、キャップボルトM6×30(3ヶ)で取り付けする。

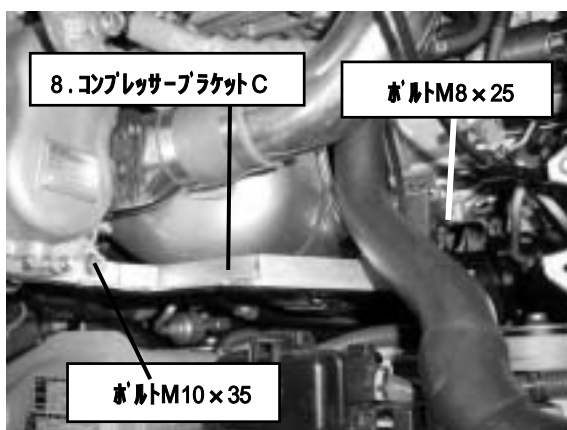
$T = 9.8 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M6)



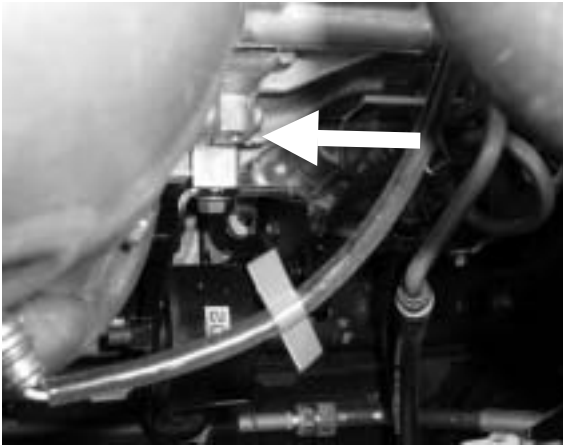
- (15) 純正スロットルボディを5. スロットルボディガスケットを使用し純正ボルトで締付ける。
 $T = 21\text{N}\cdot\text{m} (214\text{kgf}\cdot\text{cm})$ (M8)
 スロットルポジションセンサーのカプラーを取り付けてください。



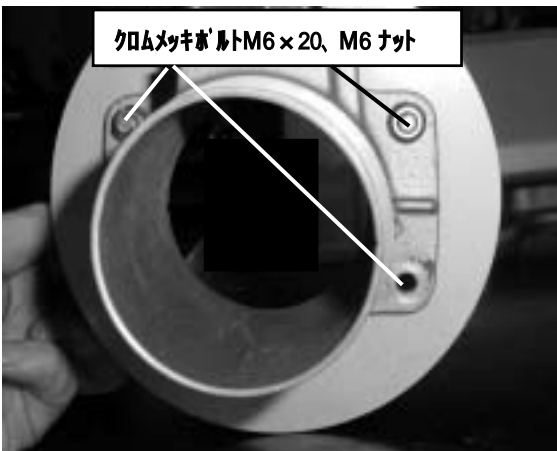
- (16) 純正ウォーターホース(2本)を26. 8ホース、28. ストレートニップル 8、33. ホースバンドSで延長しスロットルボディに取り付ける。
 (17) VSVとスロットルボディ間を27. 6シリコンホースで配管する。
 エキゾーストマニホールド近くのホースには写真のように29. CAGホースで断熱してください。
 (18) 16. インテークパイプNO1、22. インテークパイプNO2を30. シリコンホース 60(2ヶ)、34. ホースバンドM(4ヶ)、キャップボルトM8×30(4ヶ)で取り付け。
 $T = 21\text{N}\cdot\text{m} (214\text{kgf}\cdot\text{cm})$ (M8)
 純正インテークマニホールドスロットル取り付け部分に必ず純正ガスケットを取り付けてください。



- (19) 図のように8. コンプレッサーブラケットCをフランジボルトM8×25、フランジボルトM10×35で取り付け。
 $T = 21\text{N}\cdot\text{m} (214\text{kgf}\cdot\text{cm})$ (M8)
 $T = 52\text{N}\cdot\text{m} (531\text{kgf}\cdot\text{cm})$ (M10)



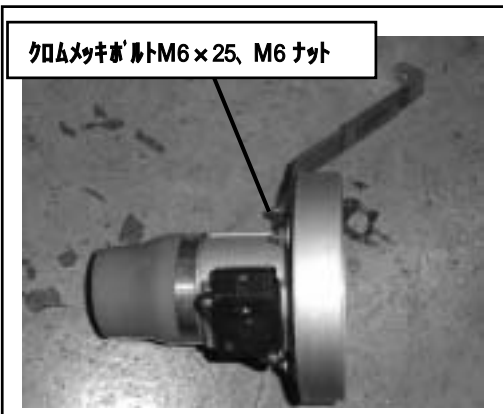
(20)左図の位置が8.コンプレッサーブラケットC
取り付け穴位置です。



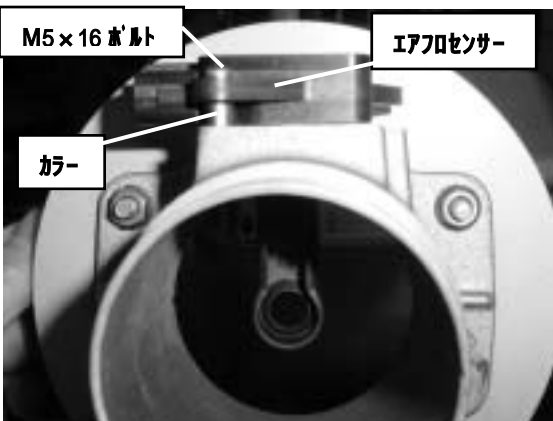
(21)37.クリーナーアダプターを付属のクロムメ
ッキボルトM6×20(3ヶ)、M6ナット(3ヶ)で
組み立てる。

$T = 9.8 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M6)

注意 M6ボルト、ナットは締め忘れのないよう十分
注意してください。

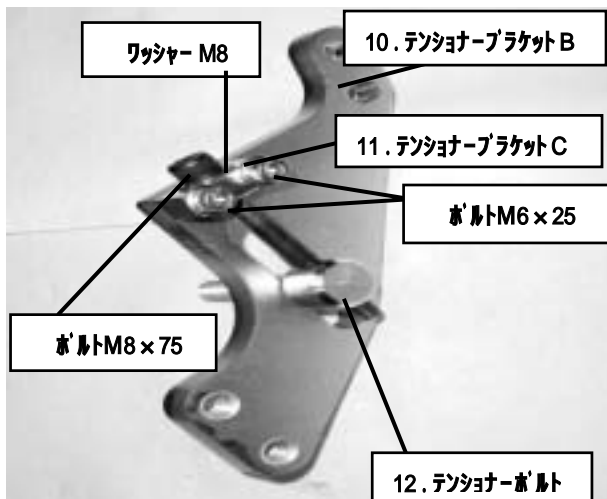
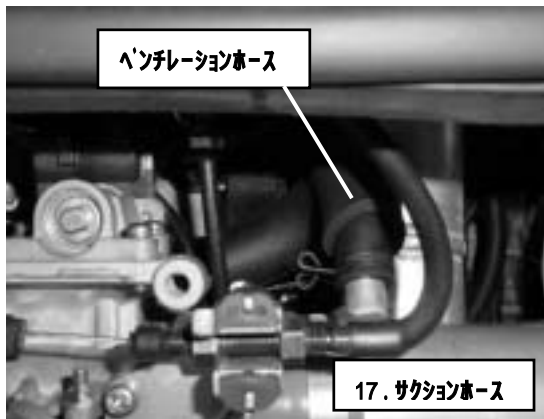
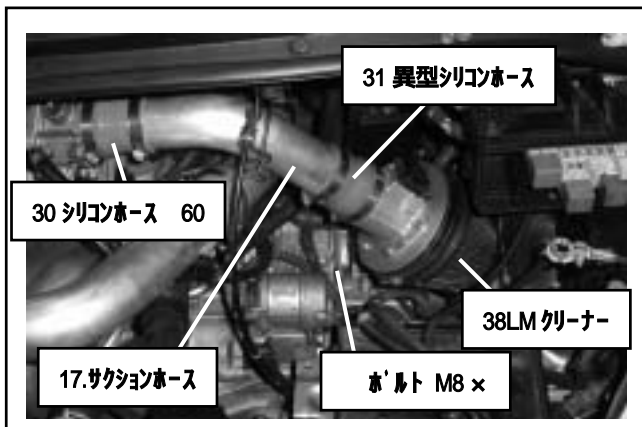


(22)21.クリーナーステーをクリーナーアダプター
の図の位置にクロムメッキボルトM6×25、
M6ナットで仮付けする。



(23)純正エアクリーナーに付いているエアフロメー
タを取り外し、37.クリーナーアダプターにM
5×16ボルト(2ヶ)、カラー(2ヶ)をで取り付
ける。

Oリングは接着部の傷つき、異物の付着に対
して十分注意し、ねじれたりしないよう差し込
んでください。



(24) 図のように38.LMクリーナー、17. サクションパイプ、30.シリコンホース 60、31.異形シリコンホース、34.ホースバンドM、35.ホースバンドL、フランジボルトM8×12で仮付けする。

38.LMクリーナーは仮付けです。

(25) パイプ、クリーナーの位置を調整して38.LMクリーナーを一度取り外し、クリーナーステータ部のクロムメッキボルトM6×25、M6ナット、フランジボルトM8×12を本締めする。

$T = 9.8 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M6)

注意 M6ボルト、ナットは締め忘れのないよう十分注意してください。

(26) 純正ベンチレーションホースを17. サクションパイプに差し込む。

ホースの長さが合わない場合はホースをカットして差し込んでください。

ホースがつぶれないよう注意してください。

(26) 34.ホースバンドM、35.ホースバンドL、LMクリーナー部ホースバンドを締め付ける。

(27) エアフロメーターのカプラーを接続する。

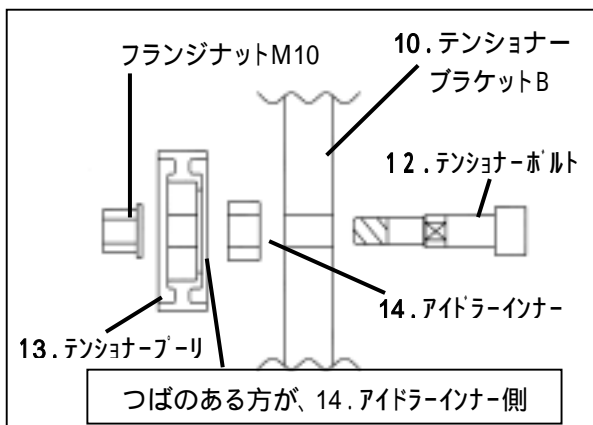
(28) VSVをタイラップで固定する。

ハーネス、ホース類をタイラップで固定してください。

(29) P12(7)で取り付けした10.テンショナーブラケットBに11.テンショナーブラケットCをキャップボルトM6×25(2ヶ)で取り付ける。

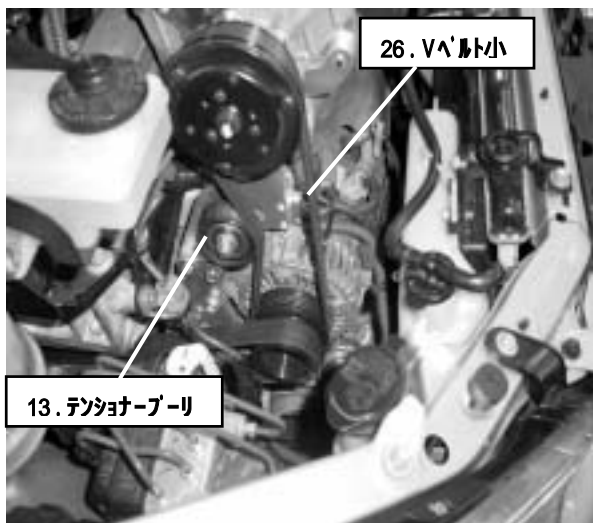
$T = 9.8 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M6)

(30) 12.テンショナーボルト、キャップボルトM8×75、ワッシャーM8を10.テンショナーブラケットBに取り付ける。



(31) 図のように14. アイドラーインナー、13. テンショナープーリーを フランジナットM10で 仮付けする。

13. テンショナープーリーの向きに注意して下さい。



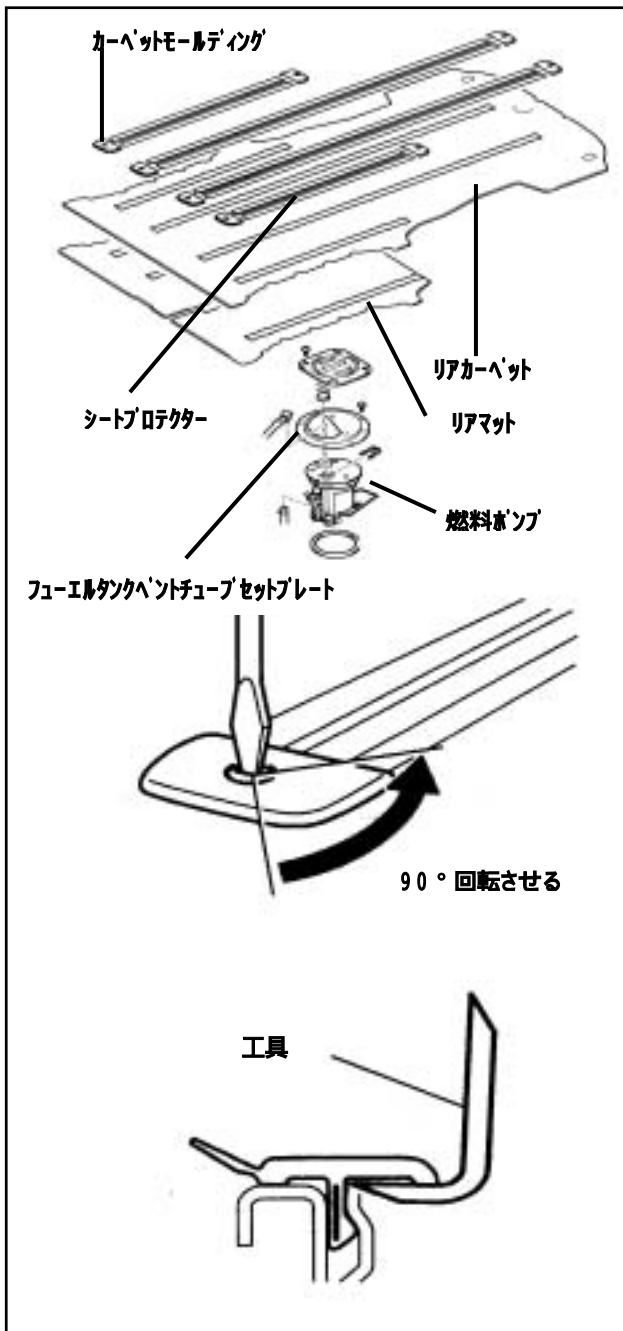
(32) キャップボルトM8×75を調節して、24. Vベルト小にテンションをかけ、 フランジナットM10を本締めする。

$T = 52 \text{ N} \cdot \text{m} (531 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M10)

左写真, 矢印の位置で24. Vベルト小のたわみ量を調節する。

Vベルトたわみ量(mm)

	新品取り付け時	点検時
たわみ量	7 ~ 8.5	11 ~ 13



(33) 25. レギュレータ交換作業

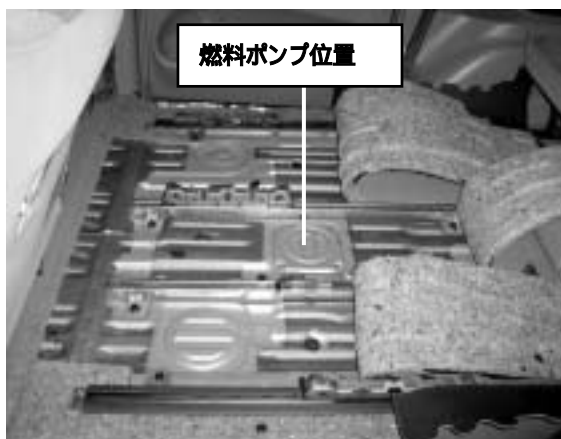
2列目シートの下にあるカバー4箇所、ボルト4箇所づつ外し、2列目のシートを車輦より取り外す。

マイナスドライバーを使用してスクリー部を左に90°回転させてロックを外し、カーペットモールディングを各々取り外す。

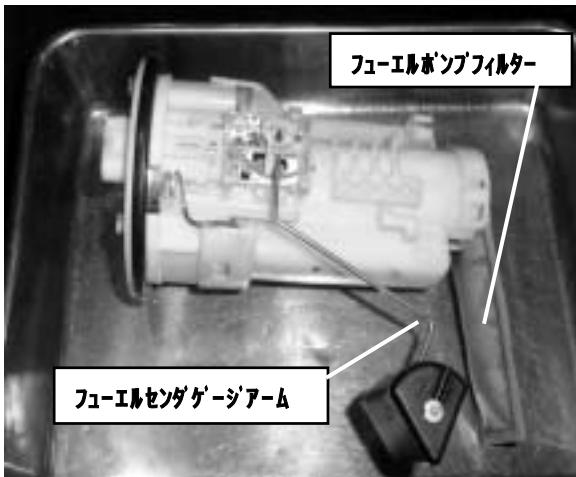
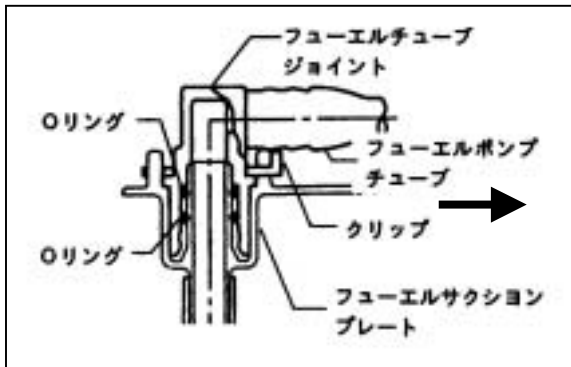
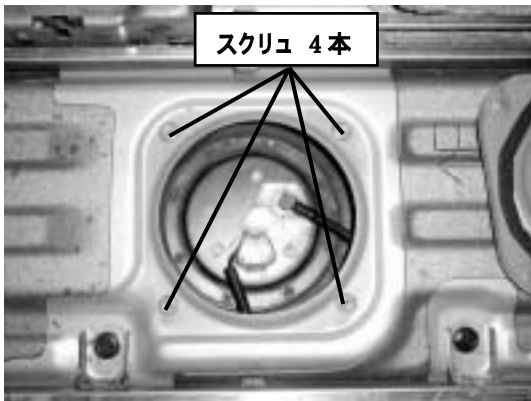
ツメのかん合を外し、シートレールプロテクターを取り外す。

変形しやすいため無理にこじったり、引っ張ったりしないでください。

センターの長いシートレールプロテクターは、3列目手前まで外し、遊んでいる状態にしてください。



リアカーペット、リアマットを燃料ポンプ位置が見えるまでめくり上げる。



スクリュ4本を外し、フューエルタンクカバーを取り外す。

クリップの先端を広げ、矢印方向へ引き抜く。

フューエルベントチューブセットプレート(24ページ図参照)を外す。

フューエルポンプチューブを上方へ引き上げて取り外す。

注意

作業前にクリップ部に付着した泥などの異物を取り除く。

フューエルチューブジョイントは、Oリングによりフューエルポンプチューブとフューエルサクションプレートをシールしている為、接着部の傷つき、異物の付着に対して十分注意して作業を行う。

脱着作業は必ず手で行い工具などを使用しない。

フューエルポンプチューブを無理に曲げたり、折ったりおよび回転させたりしない。

取り外した後、接着部をビニール袋で保護する。

フューエルポンプチューブとフューエルサクションプレートが固着している場合は、手でフューエルポンプチューブを回転させたりして固着を解除してからフューエルポンプチューブを引き上げて取り外す。

カプラーを切り離す。

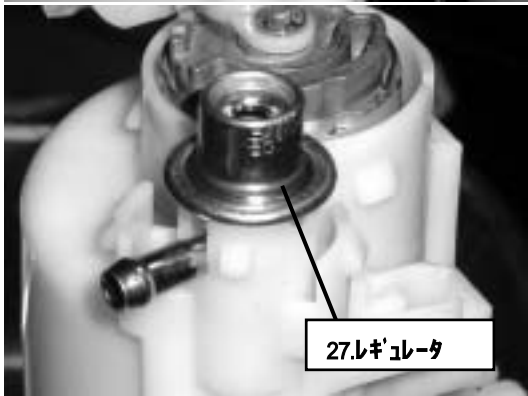
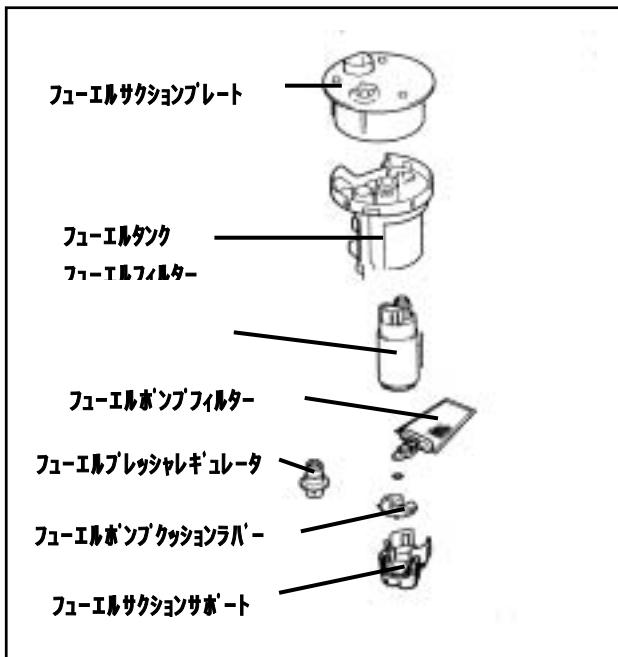
M5ボルト8本を外し、フューエルタンクベントチューブセットプレートを取り外す。

フューエルポンプASSYをタンクよりゆっくり抜き取る。

注意

フューエルポンプフィルターを傷つけない。

フューエルセンダゲージアーム部が曲がらないように注意する。



マイナスドライバーを使用してツメのかん合を外し、フューエルサクシオンサポートを取り外す。

フューエルポンプクッションラバーを取り外す。
フューエルプレッシャーレギュレータ取り外す。

左図矢印が指す黒く記しがしてある部分を削る。

フューエルサクシオンサポートのツメ部は絶対削らないでください。

注意 加工した部分で Oリングを傷つけないよう十分

注意して作業してください。

- 加工後はフューエルサクシオンチューブ ASSY W/ポンプを十分洗浄し、加工粉などを完全に除去してください。

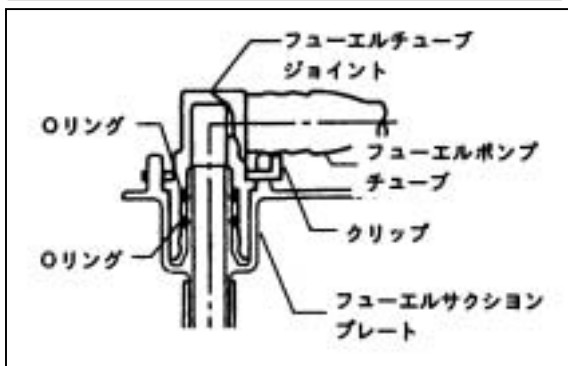
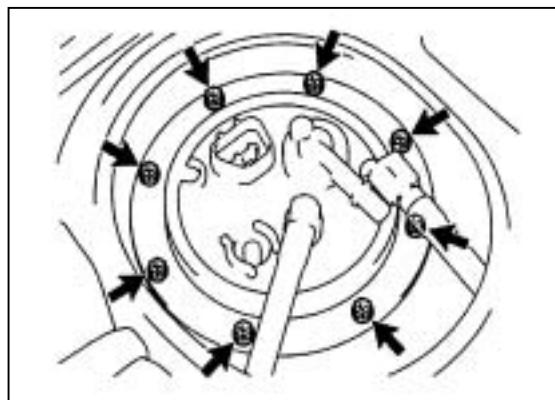
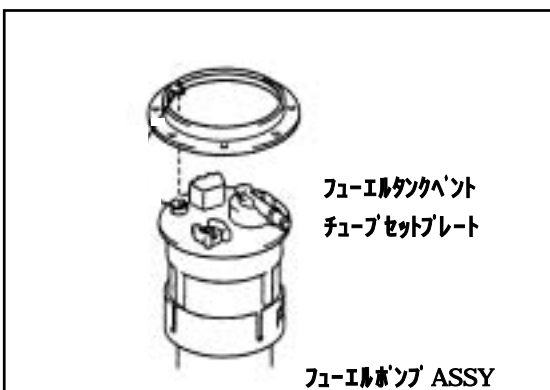
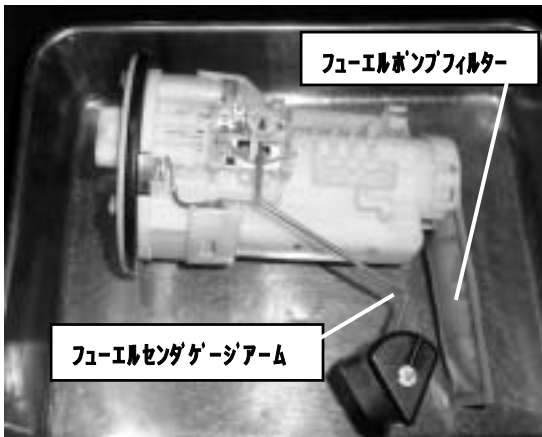
- 加工粉などがフューエルサクシオンチューブ ASSY W/ポンプ内に残っているとエンジン始動不良、エンジン不調等の原因になる場合があります。

左図のように付属の 25 . レギュレータを Oリング部にガソリンを塗布して取り付ける。

Oリングは接着部の傷つき、異物の付着に対して十分注意し、ねじれたりしないよう差し込んでください。

フューエルポンプクッションラバーを取り付ける。

フューエルサクシオンサポートを取り付ける。



ポンプ取り付け

フューエルポンプフィルター、フューエルセンダゲージアームを傷ついたり、曲げたりしないようゆっくりとフューエルポンプASSYを燃料タンクに挿入する。

フューエルタンクベントチューブセットプレートを位置を合わせてフューエルポンプASSYにはめ込む。

M5ボルト8本でフューエルタンクベントチューブセットプレートを取り付ける。

$T = 3.5 \text{ N} \cdot \text{m} (36 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$ (M5)

フューエルポンプチューブをフューエルサクシオンプレートのプラグ部差し込み、クリップを取り付ける。

注意

接着部に傷及び異物などの付着がないことを確認する。

クリップの向きに注意する。

クリップがフューエルポンプチューブのツバの上にあることを確認する。

クリップを取り付けた後、フューエルポンプチューブが抜けない事を確認する。

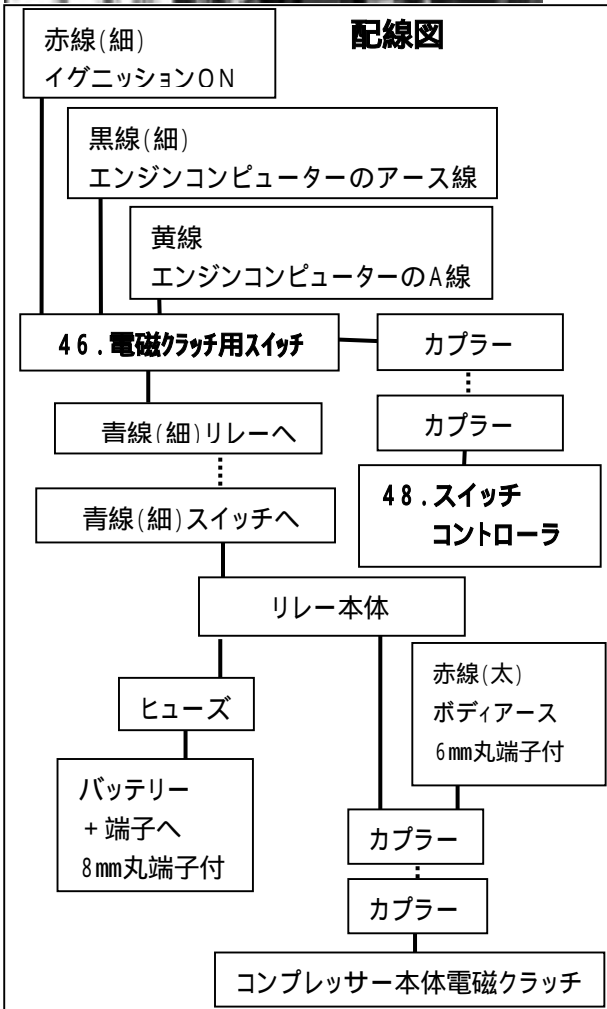
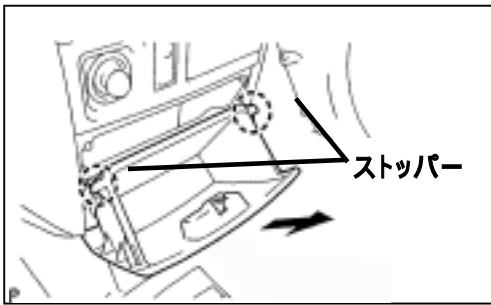
クリップが外れると、フューエルチューブジョイントが外れてしまい、ガソリンが漏れ、車両火災などの重大事故に発展してしまいます。取り付け後必ず上記の作業を確認してください。

クリップにガタがある場合は、新品と交換してください。

カプラーを取り付ける。

スクリューを締め込み、フューエルタンクカバーを取り付ける。

取り外しと逆の手順で内装、シートを取り付ける。



(34) グラブコンパートメントドアを取り外す。

(35) 41. リレーハーネス取り付け

1 41. リレーハーネスのカプラーを、1. コンプレッサー本体から出ているカプラーに接続する。

41. リレーハーネスのリレー本体を図の位置に フランジボルト M6 × 16、 フランジナット M6 を使用して取り付ける。(参考例です)

フランジボルト M6 × 16 (1ヶ) を使用して、41. リレーハーネスのカプラーから出ている赤線 (6mm 丸端子) を、ボディアースに、取り付け。

41. リレーハーネスのリレー本体から出ている赤線 (8mm 丸端子) を、バッテリープラス端子に接続する。

バッテリーに接続する線と、ボディアースする線を、間違えないように注意してください。

配線類を 36. 7 コルゲートチューブで被覆し、タイラップで固定する。

高熱部や可動部に接触しない安全な位置に固定してください。

(36) 42. 電磁クラッチ用スイッチ取り付け。

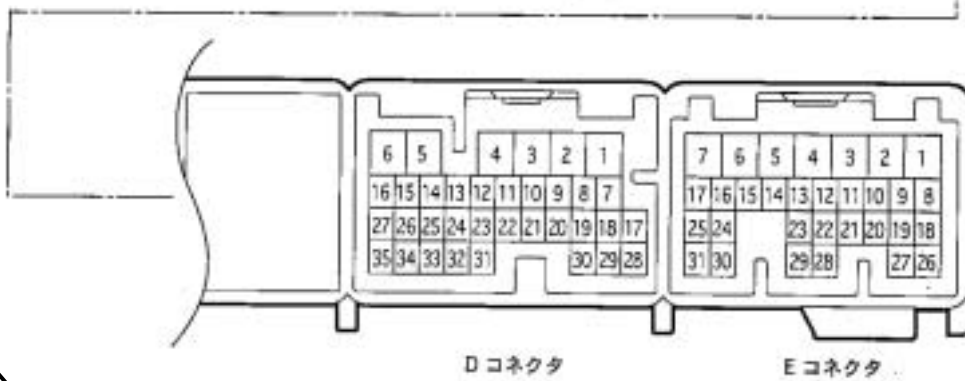
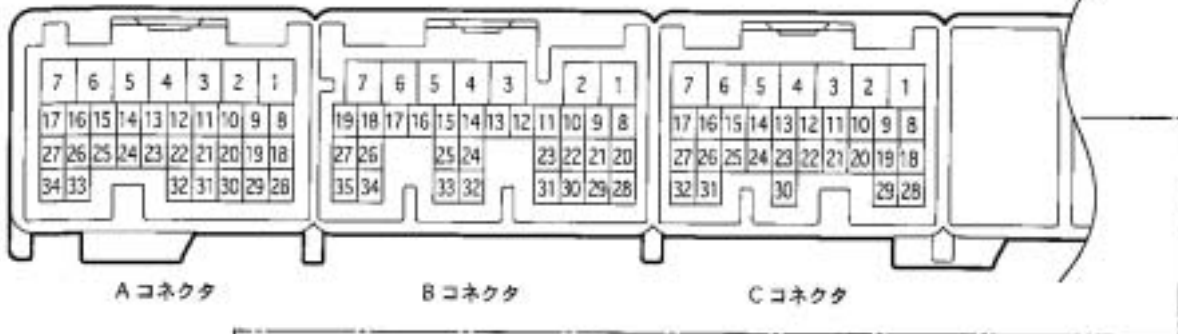
42. 電磁クラッチ用スイッチの黄線を、エンジンコントロールコンピュータハーネスの A 線に接続する。

42. 電磁クラッチ用スイッチの黒線 (細) を、エンジンコントロールコンピュータハーネス (E1) 線に接続する。

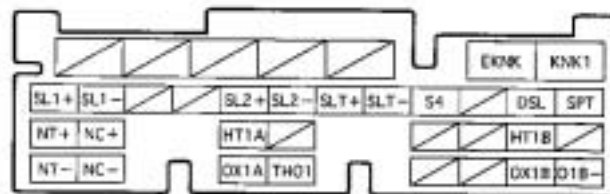
ECU 端子配列は P24 を参照してください。

42. 電磁クラッチ用スイッチの赤線 (細) を、イグニッション ON 電源 (+B) に接続する。

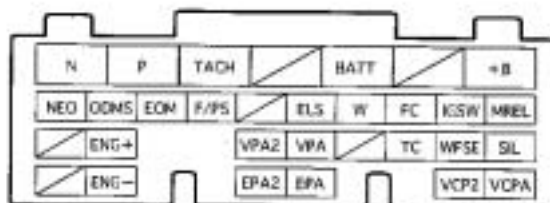
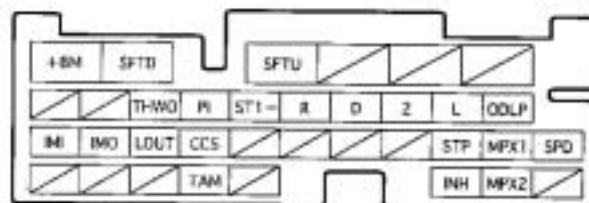
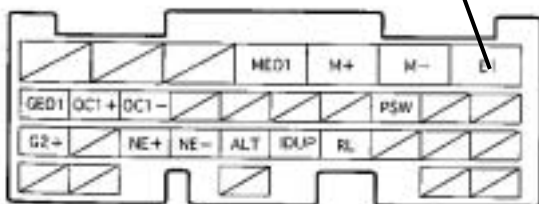
42. 電磁クラッチ用スイッチの青線を、P10 で室内に引き込んだ 41. リレーハーネスの青線に、接続する。

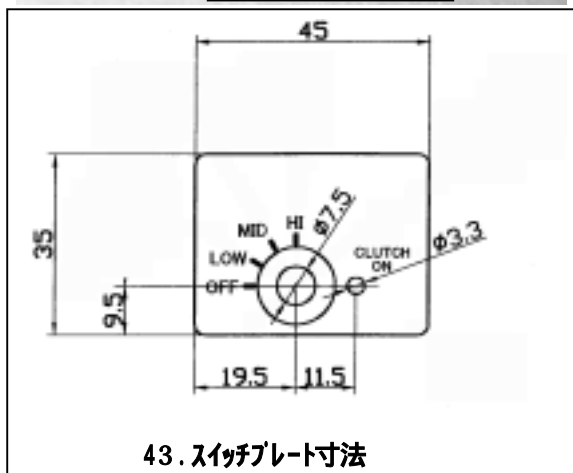
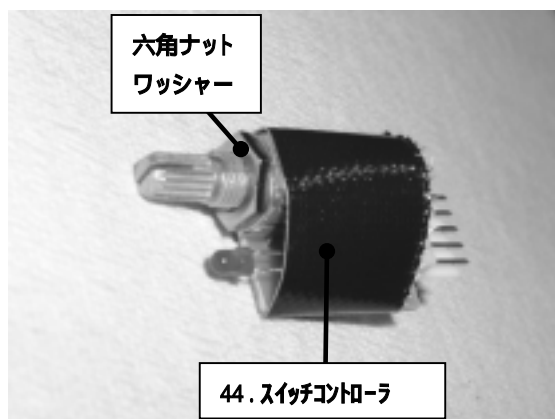


A線

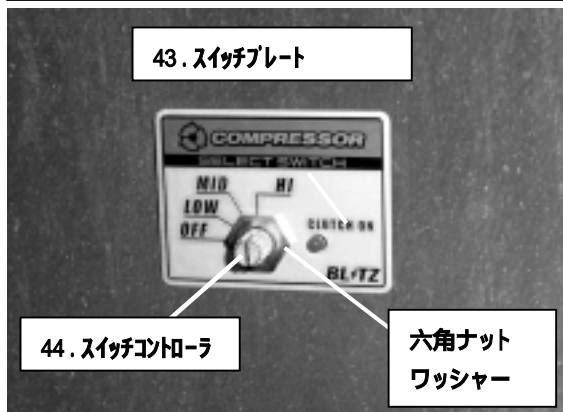


黒線(E1)





43. スイッチプレート寸法



(37) 44. スイッチコントローラおよび43. スイッチプレート取り付け。

44. スイッチコントローラの調節ツマミ部の六角ナットおよびワッシャーを取り外す。

44. スイッチコントローラを取り付ける場所に、穴開け加工する。

穴寸法は、図をご参照ください。なお、取り付け部分の厚み等により、若干の寸法の調整が必要です。

開けた穴に、44. スイッチコントローラの調節ツマミ部と、赤色 LED を通し、表面の保護シート、剥離紙を剥がした43. スイッチプレートを上から被せ、六角ナットで固定する。

スイッチプレートを、貼り付け、固定する。

44. スイッチコントローラのツマミ取り付け部を半時計回りに止まるまでまわし、調節ツマミを取り付け、マークをOFFに合わせてイモネジで締付ける。

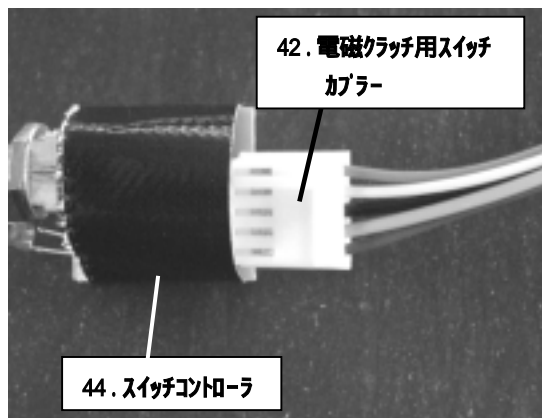
調節ツマミをまわし、プレート位置とツマミマークが合っている事を確認してください。

44. スイッチコントローラのカプラーと、42. 電磁クラッチ用スイッチのカプラーを接続する。

取り付けしたスイッチ類本体および配線類をタイラップを使用して、固定する。

高熱部や可動部に接触しない安全な位置に固定してください。

(38) グラブコンパートメントドアを、取り外しと逆の手順で取り付ける。



(39) 冷却水注入

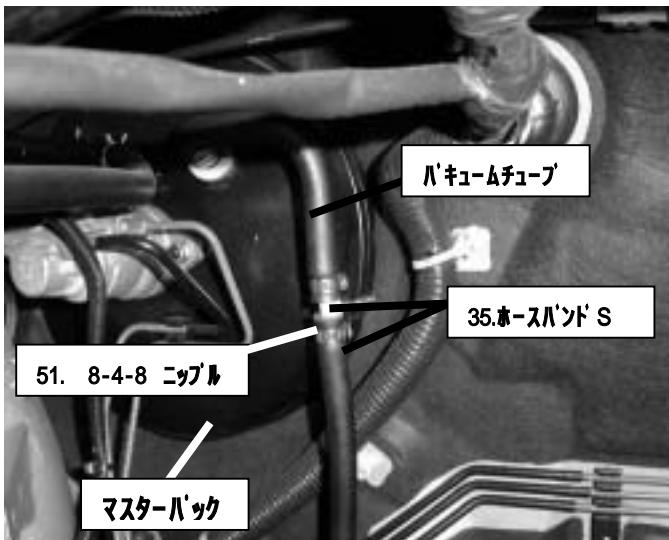
ラジエタードレンコックを閉じて、冷却水をラジエター注入口よりあふれるまで注入する。
ラジエターインレットホースおよびラジエターアウトレットホースを手で数回圧迫し、ラジエター注入口の水位が下がる様であれば、追加注入する。
ラジエターキャップを閉じる。
ラジエターリザーバタンクに冷却水を上限まで注入する。
サーモスタットが開弁するまで、エンジンを暖機する。
暖気中に、ラジエターインレットホースおよびアウトレットホースを、数回圧迫して下さい。なお、ホースは熱くなりますので、火傷には十分注意してください。
エンジンを止め、冷却水が冷えるまで待ち、ラジエターキャップを外して、水位を確認する。
水位が下がっている場合は、 から繰り返す。
水位が下がらなくなったら、ラジエターリザーバタンクの冷却水を調整する。

(40) バッテリーのマイナス端子を取り付ける。

(41) イグニッションをONにし、44.スイッチコントローラをLOWの位置に合わせ、アクセルを踏み込んだ時に、コンプレッサープールのクラッチが「カチッ」と入ることを確認してください。

以上で、本キットの取り付けは終了です。

ブースト計を取り付けされるお客様へ



左図を参考にマスターパックに配管されている 8バキュームチューブをカットし、20.ニップル 8-4-8の 8側をカットしたバキュームチューブに各々差し込み、32.ホースバンドS(2ヶ)で締め付けてください。
4側からブースト圧を取ってください。

(7) 取り付け後の確認

エンジン始動前の確認

- ・ パイプ、ホース等配管及び配線に間違いがないか確認してください。
- ・ ボルト、ナット類の締め忘れがないか確認してください。
- ・ ガソリンはハイオクガソリンが入っているか確認してください。

エンジン始動後の確認

- ・ コンプレッサーから異音等がないか確認してください。
- ・ 軽く空ぶかしをおこない、Vベルト、コンプレッサー等に異常がないか確認してください。(ベルトのスリップ、歯とび)
- ・ 冷却水、燃料、オイル等の漏れがないか確認してください。

(8) メンテナンス

快適に運転していただく為、お車を運転する前には必ず日常点検を行ってください。
尚、本キットを取り付けた後に維持、管理する項目については必ず実施してください。

コンプレッサーキット装着時の維持、管理項目

- ・ エンジンオイルの定期的な交換(推奨 5000Km以内で交換)
- ・ エンジンオイルフィルターの定期的な交換(推奨 10000Km以内で交換)
- ・ ハイオクガソリンの使用(レギュラーガソリンは絶対に使用しないでください)

キットには専用ハイオクステッカーを付属しています。給油口内側に貼り付ける事をお勧めします。

Vベルトのメンテナンスについて

本コンプレッサーキットでは、Vベルトを利用しコンプレッサーを回転させ、過給を発生させています。定期的にVベルトの点検・張りの調整を行ってください。

- ・ Vベルトの点検・張りの調整 推奨5000kmで点検・調整
Vベルトは、新品初期に一番伸びる特徴があります。新品Vベルトを取り付けた際は500km以内で、張りを調整して下さい。
- ・ Vベルトの交換 Vベルトの交換サイクルは車両の状態・運転の状況により異なります。Vベルトにヒビ、亀裂、歯とび等の劣化が確認された場合には交換をお勧めします。
Vベルトの点検・張りの調整を行わない場合、Vベルトがスリップしてしまう事があります。Vベルトがスリップしている状態ではコンプレッサー本来の性能を発揮できない場合があります。

(9) 推奨パーツ

- ・ プラグ BLITZ Iridium Spec 77 T7340B - 6 コードNo.14436
- ・ プラグ BLITZ Iridium Spec 77 T7340B - 7 コードNo.14437
- ・ 2AZ - FE車 : 25Vベルト大(7PK1980) コードNo.10135 - 011
- ・ 2AZ - FE車 : 25Vベルト大(7PK1970) コードNo.10161 - 008
- ・ 2AZ - FE車 : 26Vベルト小(4PK750) コードNo.B9335

(10) セレクトスイッチについて

本キットでは、電磁クラッチの作動ポイントをドライバーの好みに応じて選択できる、セレクトスイッチを採用しています。コンプレッサーの作動ポイントをOFF / LOW / MID / HIの4つの中から選択できます。又、コンプレッサー作動時にはLEDが赤く光り電磁クラッチがON状態であることをドライバーに知らせます。

OFF:コンプレッサーは常にOFF状態です。

LOW:アクセルを少し踏むだけでコンプレッサーが作動します。

排気量をUPしたようなフィーリングが味わえます。

MID:アクセルを半分くらい踏み込んだ時にコンプレッサーが作動します。

定速走行・加速走行を自在に操る事ができます。

HI:アクセルをほぼ全開に踏み込んだ時だけコンプレッサーが作動します。

加速したい時だけコンプレッサーを作動させる事ができますので、メリハリのある走りが可能です。

注意

OFF位置はキット未装着(ノーマル)状態ではありません。

OFF位置での走行はKIT未装着(ノーマル)状態と比較するとフィーリングが若干低下してしまいます。

製品についてのご相談先

製品についてのお問い合わせは、お電話またはFAXにて下記宛てにお願いします。

連絡先 (株)ブリッツ

TEL 0566-79-2200

住所 愛知県安城市高棚町大道40-1

FAX 0566-79-2070

製造・発売元	株式会社 ブリッツ
取扱説明書番号	10161005
初版作製年月日	2004.7.1

BLATZ